

皆様おはようございます。

立春を迎え、暦の上では春が訪れました。寒さもあと少しと思いながら日々を過ごしてまいりましょう。

黙示録もまた、いよいよ雪解けの時。熾烈な迫害があり、悪が勢いを増し、聖徒の血潮が流されました。しかし、今日はハレルヤと4回叫ばれていますように、真実なる神様の栄光と慰めがあらわされる時です。

1 この後、わたしは天の大群衆が大声で唱えるような声を聞いた、「ハレルヤ、救と栄光と力とは、われらの神のものであり、

「ハレルヤ、救と栄光と力とは、われらの神のもの」

ハレルヤとは、「主を賛美せよ」という意味ですが、ついに忍耐の聖徒たちが爆発的な叫びと感謝とを主にささげる時が来たのです。我らの神のもとに救いがあります。イエス様の十字架の贖いを通した救いがあります。そこに神様の栄光があります。そして神様は力強いお方でいらっしゃいます。

2 そのさばきは、真実で正しい。神は、姦淫で地を汚した大淫婦をさばき、神の僕たちの血の報復を／彼女になさったからである」。

3 再び声があって、「ハレルヤ、彼女が焼かれる火の煙は、世々限りなく立ちのぼる」と言った。

神のしもべたちの血がどれだけ多く流されたことでしょうか。しかし神様の裁きは「真実」です。頼るに足るものです。

黙示録 6:10 彼らは大声で叫んで言った、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか」。

ついにこの19章にて、神様はその僕たちの血の報復をなさいます。悪が栄え、弱い者が踏みにじられ、いつまでこのような不条理に苦しまなければならないのですかと叫び声をあげる時、その時はついにやって来ます。

3 再び声があって、「ハレルヤ、彼女が焼かれる火の煙は、世々限りなく立ちのぼる」と言った。

これは、やられたことをやり返すという報復ではなくて、正しい価値判断のもとに正しく帳尻を合わせられるということなのではないでしょうか。こうして真実で正しい方の裁きがなされ、正義が世界に堅く据えられるのです。

4 すると、二十四人の長老と四つの生き物とがひれ伏し、御座にいます神を拝して言った、「アーメン、ハレルヤ」。

その通りです。心から同意しますというのが「アーメン」の意味ですが、あなたは正しいお方。主の御名をほめたたえますというのが、「アーメン、ハレルヤ」です。

5 その時、御座から声が出て言った、「すべての神の僕たちよ、神をおそれる者たちよ。小さき者も大いなる者も、共に、わらの神をさんびせよ」。

別の御使いも、主をたたえて言います。

「すべての神の僕たちよ、神をおそれる者たちよ。小さき者も大いなる者も、共に、わらの神をさんびせよ」

箴言 1:1 ダビデの子、イスラエルの王ソロモンの箴言。

1:2 これは人に知恵と教訓とを知らせ、悟りの言葉をさとらせ、

1:3 賢い行いと、正義と公正と／公平の教訓をうけさせ、

1:4 思慮のない者に悟りを与え、若い者に知識と慎みを得させるためである。

1:5 賢い者はこれを聞いて学に進み、さとい者は指導を得る。

1:6 人はこれによって箴言と、たとえと、賢い者の言葉と、そのなぞとを悟る。

1:7 主を恐れることは知識のはじめである、愚かな者は知恵と教訓を軽んじる。

1:8 わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない。

1:9 それらは、あなたの頭の麗しい冠となり、あなたの首の飾りとなるからである。

1:10 わが子よ、悪者があなたを誘っても、それに従ってはならない。

1:11 彼らがあなたに向かって、「一緒に来なさい。われわれは待ち伏せして、人の血を流し、罪のない者を、ゆえなく伏してねらい、

1:12 隕府のように、彼らを生きたままで、のみ尽し、健やかな者を、墓に下る者のようにしよう。

1:13 われわれは、さまざまの尊い貨財を得、奪い取った物で、われわれの家を満たそう。

1:14 あなたもわれわれの仲間に加わりなさい、われわれは共に一つの金袋を持とう」と言つても、

1:15 わが子よ、彼らの仲間になつてはならない、あなたの足をとどめて、彼らの道に行つてはならない。

1:16 彼らの足は悪に走り、血を流すことに速いからだ。

悪もまた網を広げ手を広げ、獲物を待ち構えますが、「主を恐れることは知識のはじめである、愚かな者は知恵と教訓を軽んじる。」とありますように、「すべての神の僕たちよ、神を

おそれる者たちよ。小さき者も大いなる者も、共に、われらの神をさんびせよ」、これが私たちのいのちの道、喜びの道、真実の道であると理解します。

6 わたしはまた、大群衆の声、多くの水の音、また激しい雷鳴のようなものを聞いた。それはこう言った、「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。

7 わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。

8 彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである」。

9 それから、御使はわたしに言った、「書きしるせ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである」。またわたしに言った、「これらは、神の真実の言葉である」。

「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。

7 わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。

8 彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである」。

主の御名を賛美せよ、全能者にして主なる我らの神は王なる支配者。

わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである

エペソ 5:19 詩とさんびと靈の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

5:20 そしてすべてのことにつき、いつも、わたしたちの主イエス・キリストの御名によつて、父なる神に感謝し、

5:21 キリストに対する恐れの心をもって、互に仕え合うべきである。

5:22 妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。

5:23 キリストが教会のかしらであつて、自らは、からだなる教会の救主であられるように、夫は妻のかしらである。

5:24 そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。

5:25 夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

小羊は私たちを、そして教会を愛して、ご自身をささげ、その血潮をもって教会と私たちをきよめて下さいました。しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会として下さいました。

7 わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。

8 彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである」。

マルコ 9:1 また、彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。神の国が力をもって来るのを見るまでは、決して死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。

9:2 六日の後、イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変り、

9:3 その衣は真白く輝き、どんな布さらしでも、それほどに白くすることはできないくらいになった。

光り輝く、どんな布をさらす職人にもできない程に輝く着物を着せていただくのですが、この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いとあることには嬉しさと共に違和感を覚えます。

しかしこうも考えられるのではないでしょうか。主の贖いのその救いの上にあって、聖徒たちはただ贖いによって義とされ、正しい行いが出来るようになるのだと。それは神様による恵みにほかならず、従ってこの白く輝く衣もまた神様の恵みの賜物であると。

ローマ 3:9 すると、どうなるのか。わたしたちには何かまさったところがあるのか。絶対にない。ユダヤ人もギリシャ人も、ことごとく罪の下にあることを、わたしたちはすでに指摘した。

3:10 次のように書いてある、／「義人はいない、ひとりもいない。

3:11 悟りのある人はいない、／神を求める人はいない。

3:12 すべての人は迷い出て、／ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、／ひとりもいない。

3:22 それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。

3:23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなつており、

3:24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。

3:25 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、

3:26 それは、今の時に、神の義を示すためであった。こうして、神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである。

ローマ 13:8 互に愛し合うことの外は、何人にも借りがあつてはならない。人を愛する者は、律法を全うするのである。

13:9 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」など、そのほかに、どんな戒めがあつても、結局「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」というこの言葉に帰する。

13:10 愛は隣り人に害を加えることはない。だから、愛は律法を完成するものである。

13:11 なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。

13:12 夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。

13:13 そして、宴樂と泥醉、淫乱と好色、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つつましく歩こうではないか。

13:14 あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。

私たちはいつまでも罪と不義の中にあって心もとない弱々しい歩みをするのではなく、救われて義とされて正しい行いを行うことが出来るのです。これが救われてさせて頂く聖徒たちの正しい行いによる光り輝く、汚れのない麻布の衣です。これは人の努力で勝ち得たものではありません。神様が小羊の血できよめ、花嫁を準備して下さったのです。

19:9 それから、御使はわたしに言った、「書きしるせ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである」。またわたしに言った、「これらは、神の真実の言葉である」。

小羊のこの婚宴に招かれた者は幸いです。小羊との婚宴、婚姻に招き入れられ、ぶどうの木と結び合わせられる枝は幸いです。神の言葉は真実だからです。

ヨハネ 15:1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

15:2 わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。

15:3 あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。

15:4 わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

15:6 人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのであると同じである。

15:11 わたしがこれらのこと話をしたのは、わたしの喜びがあなたがたのうちに宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

19:10 そこで、わたしは彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうとした。すると、彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたと同じ僕仲間であり、またイエスの

あかしひとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。イエスのあかしは、すなわち預言の靈である」。

「わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。」との書き出しで始まった黙示録でしたが、まさにイエスの証しこそが私たちに求められていることです。これこそが聖靈の働きです。

1コリント 12:1 兄弟たちょ。靈の賜物については、次のことを知らずにいてもらいたくない。

12:2 あなたがたがまだ異邦人であった時、誘われるまま、物の言えない偶像のところに引かれて行ったことは、あなたがたの承知しているとおりである。

12:3 そこで、あなたがたに言っておくが、神の靈によって語る者はだれも「イエスはのろわれよ」とは言わないし、また、聖靈によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない。

天にあって神の御前に立つ、御使いもまた、神をあがめ、イエス様を証しする私たちと同じ、神に仕える者であることが分かります。それは礼拝の対象にはなりえません。どんなに力強い天使でも、神に仕える者にすぎません。神以外の何物をも礼拝するには及びません。

19:11 またわたしが見ていると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた。それに乗っているかたは、「忠実で真実な者」と呼ばれ、義によってさばき、また、戦うかたである。

19:12 その目は燃える炎であり、その頭には多くの冠があった。また、彼以外にはだれも知らない名がその身にしるされていた。

19:13 彼は血染めの衣をまとい、その名は「神の言」と呼ばれた。

ここにも「真実」との言葉が出てきます。

神様は、そのひとり子を十字架に与え、血を注ぎだして、その衣を血で浸し、贖いとなしてくださいました。そして聖徒たちを聖なる清いものとして下さいました。

19:14 そして、天の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を着て、白い馬に乗り、彼に従った。

19:15 その口からは、諸国民を打つために、鋭いつるぎが出ていた。彼は、鉄のつえをもって諸国民を治め、また、全能者なる神の激しい怒りの酒ぶねを踏む。

19:16 その着物にも、そのももにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた。

このお方こそ、王の王、主の主です。王の王、主の主がその衣をご自分の血で染めて民を贖

ってくださいました。純白の汚れのない麻布をまとわせてくださいました。そのお方の救いがあります。

ルカ 5:8 これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」。

5:9 彼も一緒にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚いたからである。

5:10 シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブとヨハネも、同様であった。すると、イエスがシモンに言わされた、「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」。

恐れるな、私はあなたを働き人として、証し人として召すのだと語りかけがあります。

19:17 また見ていると、ひとりの御使が太陽の中に立っていた。彼は、中空を飛んでいるすべての鳥にむかって、大声で叫んだ、「さあ、神の大宴会に集まってこい。

19:18 そして、王たちの肉、将軍の肉、勇者の肉、馬の肉、馬に乗っている者の肉、また、すべての自由人と奴隸との肉、小さき者と大いなる者との肉をくらえ」。

先には小羊の婚宴がたびたび登場しましたが、今回は神様に反抗する宅間の誘惑によって道を間違い、悔い改めの機会を得ながらもそうしようとしない人々がその肉を空を飛ぶ鳥たちについばまれ、処刑にされる出来事が述べられています。

19:19 なお見ていると、獸と地の王たちと彼らの軍勢とが集まり、馬に乗っているかたとその軍勢とに対して、戦いをいどんだ。

19:20 しかし、獸は捕えられ、また、この獸の前でしるしを行って、獸の刻印を受けた者とその像を挙げる者とを惑わしたにせ預言者も、獸と共に捕えられた。そして、この両者とも、生きながら、硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。

19:21 それ以外の者たちは、馬に乗っておられるかたの口から出るつるぎで切り殺され、その肉を、すべての鳥が飽きるまで食べた。

、救と栄光と力とは、われらの神のものであり、そのさばきは、真実で正しい。聖徒たちの流された血潮は、その暴虐は、ついに裁かれ、不義はいつまでも続くものではないことが示されました。私たちにとっても思いもつかない厳しいこと、願いながらも叶えられないこと、世の中の不正義に胸が痛むこと、いつまでですか、どうしてですかということは、いつまでも続くものではなくて、さばきは、真実で正しいというお方の出番がやって来ますが、「ハレルヤ、救と栄光と力とは、われらの神のもの」と望みを抱くことが出来ますことに感謝したいと思います。

神の前にあって祈り遣わされる御使いと共に、

「わたしは、あなたと同じ僕仲間であり、またイエスのあかしごとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。イエスのあかしは、すなわち預言の靈である」との御言葉を思い起こし、神だけを拝し、「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。との御言葉に励まされ、ただひたすらにイエス様の証しをして行きたい、それが預言の靈を頂いている私たちの生き方であると信じて今週も進ませていただきたく願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。苦難と不安のうちを進むときもお励ましをお与えください。「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」また、「これは、神の真実の言葉である」との御言葉をありがとうございます。「すべて神の僕たちよ、神を畏れる者たちよ、小さな者も大きな者も、わたしたちの神をたたえよ」とありますように、衣を血で染め、私たちの不義から贖い、白く清い、輝く衣を着せて下さった方を喜び、賛美し、主の赦しとお守りの中を今週も進ませてください。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン